

BS部門・VS部門の一体的な運営に関する実証隊の募集について

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
プログラム委員会

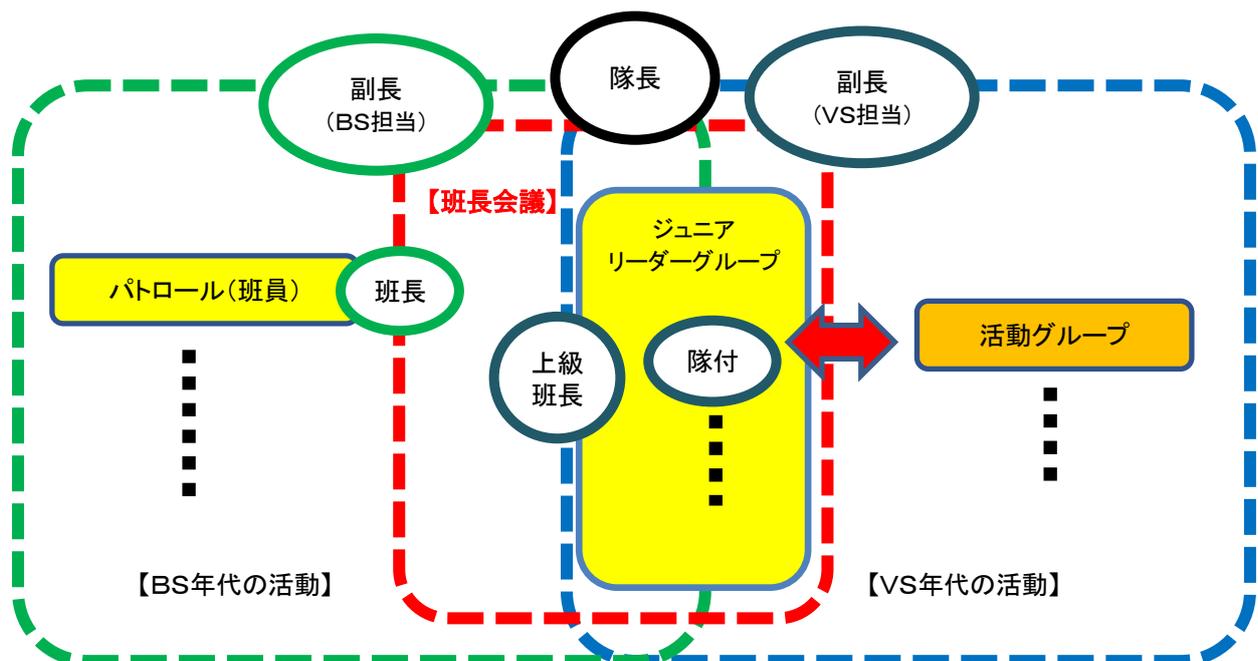
1. 実証調査について

現代の青少年の取り巻く環境は、ご承知のとおり日々大きく変わっています。とくにICTの発展とAIの進歩、さらにはグローバル化が進展する社会において次代を担う青少年は、さまざまな能力が求められており、その中でも課題解決能力やグループワークなどの能力の涵養については、学校でもその対応が始まってきています。日本連盟プログラム委員会でも、これまでに青少年プログラムの見直しについては、このような社会的背景を考慮しながら、それぞれの年代に見合ったスカウト活動を研究・検討してきました。

そして今般の検討では、BS部門・VS部門において、班制教育と進歩制度を効果的に活用することによって、スカウト自らが隊運営を行い、野外体験活動をゲームとして楽しむ活動を軸にしながら、なおかつ、スカウト個々がスカウト活動の集大成としての富士スカウトを目指せるような部門のプログラムを検討しています。この内容は、まったく新しい展開ではなく、「スカティングが本来あるべき形」をより具現化するものと考えています。

これまでに進歩制度については、BS部門での初級～菊章とVS部門での隼章、富士章を「一貫した累進的進歩」として捉えた進歩課程に改め、平成31年（2019年）3月31日をもって移行を完了しました。プログラム委員会では、次の段階として班制教育を効果的に活用した隊運営を行う部門プログラムについて、2つの部門を一体化させることも含めて研究・検討に入っています。

現在までの検討から、次のような「部門の一体化」についてイメージをしています。



プログラム委員会では、今回の検討にあたり、このようなイメージに基づく隊でのプログラム展開が効果的に進められるか、実施に向けての課題は何か、各地域の実情に合った活動が可能かなどを多角的に検証する必要があると考えています。そこで、検証の具体的な方法としては、全国より最大で30隊程度の実証隊を編成してもらい、行っていく予定です。実証隊の活動では、主に「①スカウト（隊運営）」、「②プログラム」、「③指導者」の面を、それぞれの「活動展開の目標」の達成状況をもって、「一体化を含むプログラム見直し」の有効性を実証していきます。

①スカウト（隊運営）	目 標：スカウトによる隊運営（班制教育の確立、自治の活動）
<ul style="list-style-type: none"> ● VS年代がジュニアリーダーとしてBS年代の活動の運営にかかわり、自分たちでプログラムを作り、自分たちで活動していく隊運営の実現 ● BS年代はパトロールを中心とした活動の展開 ● スカウト自ら進級に取組み、スカウト相互に支援（指導、訓練、練習、考査）しながら進級できる隊運営の実現 ● VS年代は、自らが活動グループを選べる環境づくり 	
②プログラム	目 標：一貫した累進的進歩制度を活かしたプログラム展開
<p>【Learning by Doingのもと実行・体験による活動】</p> <p>○BS年代：ハイキング・キャンピングを軸にした野外活動を中心した活動を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ウッドクラフトを活用した5泊6日以上長期野営の実施 ● スカウトスキル活かしたハイキングの実施 ● ゲームを活用した訓練の実施 ● 想定（ストーリー）のあるプログラムを展開 ● 班ハイク、班キャンプの計画、実施 <p>○VS年代：ハイアドベンチャー・社会貢献を中心した年齢に合わせたプログラムを展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ● BS部門で体得した技能、知識が生かされる高度な野外活動の実施 ● 定期的に野外活動を中心に自分たちが必要としている訓練を実施 ● 自らの問題意識と行動による社会貢献プログラムの展開 ● 80%以上の出席で確実に富士スカウトを目指せる年間プログラムの作成、実施 ● VS年代の集大成となるプロジェクトの実施 	
③指導者の支援	目 標：適切な成人指導者による支援
<ul style="list-style-type: none"> ● 年間プログラム（計画書）、月間プログラム（計画書）、隊集会プログラム（計画書）等の作成に関する指導者のスカウト支援体制と支援プログラムの確立 ● 自治のある班活動に対する、効果的な指導者の支援体制と支援プログラムの確立（班長訓練、班長会議等への関わり方など） ● 活動に合わせたグループ編成と必要なアドバイザーの支援 ● セーフ・フロム・ハームに基づいた指導 	

2. 実証隊における活動の展開方法

(1) 年代における所属と活動内容の展開

- 対象とするスカウトの年齢（学年）は小学6年生から高校3年生
- 前半（小6～中3）をBS年代、後半（中3～高3）をVS年代としてプログラムを展開する
- 中学3年では受験の状況、進級状況、本人の意思などに沿って年代よるプログラムを移行する
- BS年代では「ハイキングとキャンプ」、VS年代では「ハイアドベンチャーと社会貢献」を中心とした活動を展開
- BS年代ではパトロールに所属、VS年代では活動に合わせたグループに所属する
- BS年代の活動は、ジュニアリーダーの支援のもとで隊運営を行う
- VS年代は、それぞれの活動やプロジェクトに合わせた活動グループに所属することができる

学年	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
年代	BS年代				VS年代		
所属	パトロール				ジュニアリーダーグループ 活動グループ		
活動	ハイキングとキャンプ				ハイアドベンチャーと社会貢献		
進級	初級	2級	1級	菊章	隼章	富士章	

- ※ パトロールへは中学3年までのスカウトが所属できる
- ※ ジュニアリーダーグループには、中学3年から所属できる
- ※ 活動グループには、中学3年から所属できる
- ※ ジュニアリーダーグループと活動グループにどちらかまたは両方に所属できる

(2) 実証隊の支援等

- 県連盟コミッショナー、プログラム委員会およびタスクチームより、実証隊の支援を行う
- 実情に合わせた隊運営方法や現行のプログラムとの差異の調整については、県連盟コミッショナーグループへ相談し、アドバイス等の支援を行う
- プログラムデザイン、プログラム展開例等のプログラム材料提供を、プログラム委員会およびタスクチームが行う
- 定期的な進捗状況の確認、活動の視察、実証隊間の意見交換会等を行い、実証データの収集を行う

3. 実証隊の募集要件

(1) 規模

「プログラム」が各地域・団の実情に柔軟に適用ができると同時に、目標とすべきことが同じ方向性を持ち、一定の水準において方法実証するため、実証隊編成は、次の基準により団内での編成を依頼します。

実証隊の団の規模（いずれも実働の人数として）

BS年代	VS年代	指導者人数
2班・12人以上	4人以上	3人以上（隊長含め）

※実証隊の運営は、1こ団内で編成し、隊長は1人により運営します

（2）プログラム

①BS年代のプログラムの要件

- 秋～夏のサイクル（9月～10月のスタート）で行う
- 夏季長期野営（5泊6日以上）を年間プログラムの目標点とする
- 夏季野営に向けて年間3回以上の野営を行う
- 年間4回以上ハイキングプログラム実施する
- 年間1回以上の班ハイキング、年間1回以上班キャンプを実施する
- スカウトスキルを中心とし、ゲームを活用したプログラムを展開

②VS年代のプログラム要件

- BS年代で得た知識や技能を生かしてプログラムを展開する
- 定期的に野外活動を中心に自分たちが必要としている訓練を実施する
- 高度な野外活動の実施する
- 社会貢献プログラムの実施する
- プロジェクト法に沿った個人プロジェクトを実施する

（3）隊運営について

- 毎月班長会議（グリーンバー会議）の開催
- （指導者の支援のもと）スカウトによって、グループ（班、活動チームなど）の編成する
- （指導者の支援のもと）スカウトによって、年間、月間、集会（活動）のプログラムを計画する
- （指導者の支援のもと）スカウトによって進級プロセス（計画、指導、訓練、練習、考査）を進める
- VS年代は、活動に応じたチームに所属することができる

（4）指導者支援（実証隊、指導者の条件）について

- 実際に隊長が隊運営関わっている隊・団（副長が代行的に隊長をしている隊・団を除く）
- BS部門とVS部門のプログラム、ならびに隊運営に関わる一定の知識と経験を有していると認められる指導者がいること

※野外活動の意義と活用について理解し、スカウトスキルをプログラムに活用していること

※BS部門における年間プログラム作成プロセス、パトロールシステム等について理解できていること

※VS部門におけるスカウト活動のプロジェクト法について理解していること

※スカウトの意思決定のプロセスの重要性を理解し、適切にプログラムプロセスに反映させること

- プログラム実証に対しての理解をもち、柔軟に運営方法やプログラム展開に積極的に工夫することを期待できること
- 実証内容を定期的に報告し、打ち合わせ等にも参加が可能なこと
- 隊集会等の活動に、実証隊の支援を行う県連盟コミッショナー、プログラム委員会、タスクチーム等

の見学の受け入れが可能なこと

- 活動の内容を公表することが可能なこと

4. 実証隊のプログラム展開方法

- BS年代、VS年代を一つの隊で編成する
- BS年代、VS年代の年齢特性および進級課題に沿って、プログラム展開を変える
- BS年代はパトロールに所属し、VS年代は活動に合わせたグループに所属する
- VS年代のスカウトがジュニアリーダー（グループ）としてBS年代の活動の運営に関わる

5. 実証隊の募集数

全国で20～30こ隊程度

各ブロック2県連盟2こ隊を最小に、加盟登録人数1,000人を超える県連盟については、ブロック内の調整を経ずに最低1こ隊を受け付ける。

6. 応募方法

県連盟またはブロックによる推薦

7. 推薦締め切り

2019年6月末日

8. 実証隊の選定

応募多数の場合には、前述1.の実証隊の規模と、ブロック・全国的な県連盟の推薦状況を勘案して、プログラム委員会で選定する。

9. 実証のスケジュール

- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| ① 実証隊の募集 | (2019年5月～) |
| ② 実証に関する県連盟への説明 | (2019年5月全国大会・県連盟コミッショナー会議・テーマ別集会 鹿児島) |
| ③ 実証隊の選定 | (2019年6月末) |
| ④ 実証に関する隊への説明 | (2019年7月～) |
| ⑤ 実証計画の提出 | (2019年8月末) |
| ⑥ 実証開始 | (2019年9月～順次) |
| ⑦ 実証状況の把握 | (2019年9月～順次) |
| ⑧ プログラム見直しに関する県連盟への説明 | (2019年9月28日・都内) |
| ※県連盟の進歩担当委員への説明会・実証の途中報告 | |
| ⑨ 実証内容の分析とまとめ | (2020年9月～) |
| ⑩ まとめ公表 | (2021年5月全国大会) |